

## ヒアリングについて

### 1 実施概要

目 的：NPO 法人やボランティア団体など、特定のテーマを中心に活動する支援者・当事者団体等を対象に、その団体の活動状況や課題等を把握し、計画策定に活かすもの。

期 間：平成30年6月～平成31年3月

団体数：53団体（62か所）

### 2 ヒアリング内容

#### (1) 共通する内容

##### 《人》

- 相談をするのであれば、近所でない人の方がよい（身近な所では困りごとや悩みは相談しづらい）。
- 困りごとや悩みは同じような経験をした人でないと話しづらい（同じ経験をした人、同じ境遇の人であれば話せる）。
- 否定せずに、受け止めることが必要。
- 困った時に相談できる場所、相談できる人がいることが重要。

##### 《場》

- 解決する場所ではなく、悩みや愚痴を吐き出す場所が必要。
- 安心できる場所や環境が必要。
- 支援する側としては、地域に誰もが集まれる場所があればいいが、当事者が参加するかはわからない。

##### 《情報》

- 困りごとや悩みを自分から発信できるようになることも重要。
- SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）やインターネットで情報収集する人が増えたが、情報量が多すぎて悩む人も多い。
- 使える制度・サービスを知らない、情報が入ってこないことが孤立に繋がる。

##### 《地域》

- 民生委員や地域福祉は高齢者を対象としている印象がある。
- 複雑な課題を持つ人やSOSを出せない人は、地域から孤立している場合が多い。

##### 《その他》

- 当事者には、制度やサービスがあるが、その家族や周囲の人への支援も必要。
- 当事者や地域のために行っている活動をもっと知ってもらいたい。
- 活動場所や相談窓口に出て来ることができない人へのアプローチが必要。
- 達成感や役に立っているという感覚が生きがいに繋がる。
- 担い手や後継者の不足、ボランティアの高齢化が課題。

## (2) 各分野の内容

### 【高齢者】

- 男性介護者はなかなか愚痴を言わない。
- 話し相手を求める人は年々増えている。
- 予防や生きがいつくりの場が必要。
- サロンや老人クラブに参加するのは、女性が多い。
- 50歳代や男性の活動への参加が少ない。

### 【障害者】

- 学齢期に相談する場所がない。
- 親の息抜きの場所が必要。
- 障害者がどこに住んでいるのかわからない。
- 特別支援学校に通っていると、地域との繋がりが薄くなる。
- サービスを受けるだけでなく、誰かのため、何かのために動く気持ちが重要。
- 交通手段が課題で就職に繋がらない人もいる。

### 【子ども】

- 迷惑をかけたくないという理由で相談できない。
- 支援される側も自分から発信していくことが必要。
- 家族関係の悪化から孤立することもある。
- 子育て中の父親の居場所がない（母親の居場所はたくさんある）。
- 「何かあったら電話して」の“何か”がわからない。
- 災害時は、未熟児や多子家庭への支援も必要。

### 【生活困窮者・ひきこもり・依存症】

- 自分の弱みは見せたくない。
- 非難をせずに、ありのままを受け止めることが必要。
- 貧困家庭は他の家庭、外の世界を知らない（経験が必要）。
- 経済面だけでなく、親から伝わるはずのものが伝わらないことも貧困である。
- 誰かのために行動する、役に立つということが重要。

### 【その他】

- 専門職でないから話せる場合もある。
- 相談できないからホームレスになる。
- イベントが外国人留学生と日本人を繋ぐ場所になっている。
- 家でも職場でもない第3の居場所が必要。
- 外国人からするとごみ出しのルールが難しい。